

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鎚木町198-3  
電話(043)485-1801

感じるままに思いつくままに ----- 柴田 伸一 やっぱり歴史は面白い! ----- 伊藤 和宏  
犬の散歩時のマナーの悪さにショック! -- 川木 淳 行く所がある幸せ ----- 井手 季雄

## 新春に寄せて

佐倉市長 藤 和雄



読売巨人軍終身名誉監督の長嶋茂雄さんに市民栄誉賞を表彰させていただきました。そして、国レベルでは、2020年夏季オリンピック、パラリンピックの開催都市が東京に決定いたしました。これは、日本全体にとって明るい話題になりました。

『なかま』をご愛読の皆様、新年あけましておめでとうございませう。市民の皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、旧年中は、佐倉市政の推進にあたり、多大なるご尽力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。昨年を振り返りますと、佐倉市における大きなイベントとしては、佐倉市名誉市民で

その一方で、大きな災害が各地で発生した年であり、佐倉市においても台風による被害がありました。被害に遭われた方々には心よりお見舞いを申し上げます。備えあれば憂いなしと言いますように、

少しでも災害被害を軽減するために、日ごろから、ご家庭でも身の回りの対策を立てていただければと存じます。佐倉市におきましても、皆様は安全に避難できるように災害に強いまちづくりを全力で取り組んでいく所存でございます。

さて、平成26年の干支は午でございます。ここに私の趣味でもあります書道により「午」という文字を書かせていただきました。

「馬」は古くから人間との関係が深く、労働力として、とても役に立つことから、農作業・運搬のみならず、戦時には機動力として不可欠なものとしてきました。また、颯爽と駆ける馬の姿は勇ましく、大きな飛躍を期待させます。

したがって、本年が飛躍の年となりますよう、より一層市政運営に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。年の初めに当たり、皆様のご健康と幸多い年でありますようお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



## 感じるままに

### 思いつくままに

秋は果て、木枯らしとともに冬がやってきました。

冬の夜、特に用事のあるわけでもなく急にあなたに手紙を書いてみたくなりました。

私は、以前からその傾向がありました。私に、以前からその傾向がありました。私に、以前からその傾向がありました。私に、以前からその傾向がありました。

人との話も相手の気持ちを深く考えず、何気なく言った言葉で相手の方の気持ちを傷つけたり、また早とちりして迷惑をかけています。落ち着いて考えなければと反省をしている中で『知の逆転』という本に出会いました。

その中で英国人の脳神経科医のオリバー・ザックス氏は「Eメールでなく、いつも実際にペンでゆつくりと手紙を書くようにしています。この「ゆつくりさ」というのが重

要で、よく考えますし、考えを洗練させることができますからです」と話しています。

また柏木恵子氏の『おとなが育つ条件』（岩波新書）では通信機器の発達、すなわち「考えの追求によって」「考える葦」である人間ならではの力が衰えるとあり、努めて手紙を書く、本を読んだらメモや要約を作るなど、手間ひまかける言語活動が考える力を育み、より深い思考を可能にする」と述べています。

「読み・書き」が人の思考を深めることを二人は強調しています。火急でないことは手紙や葉書を書くように努め「ゆつくりさ」を大切に、落ち着いて考えることを心掛けたいものです。

またお便りいたしますが、どうか心穏やかで落ち着いた日々をお過ごし下さるよう

（稲荷台 柴田 伸一）

## やつぱり

### 歴史は面白い！

『なかま』No.439（平成25年5月号）で井上恭二さんが投稿した「八重の桜、覚馬と佐倉」の続編です。油屋宿帳で会津藩士・山本覚馬に続き、同じ会津藩士・秋月悌次郎の名前を見つけました。

彼は万延元年12月5日（1861年1月15日）に佐倉を訪れ、宿泊もせず立ち去っています。なぜ宿泊もせず立ち去って、宿帳に記帳を残したのか？ 疑問が残ります。

彼は藩校「日新館」の俊才で、江戸に留学、幕府の昌平坂学問所に入學します。ここで10年間刻苦勉強し、書生寮の舎長となり、他藩からも知られる存在になりました。

そして、佐倉に来る2年前の安政6年、藩主松平容保から「西国諸藩を巡歴の上、制度・風俗を仔細に視察して状

況を報告せよ」との命を受け、2年間かけて中四国路や九州を回っています。これが後に会津藩公用方として歴史上で活躍する下地になっています。NHKの大河ドラマでは秋月悌次郎を「北村有起哉」が演じ、会津同盟の締結と禁門の変、会津戦争での新政府軍への降伏の場面などに登場して活躍しています。

晩年は熊本の旧制五高の教授となり、若者教育に情熱を燃やし、そこで出会ったラフカディオ・ハーン（小泉八雲）に「神様のような人」と尊敬の念を持って書かれています。

それにしても本当に佐倉に来た目的は何？ 佐倉藩にも昌平坂時代の知人や順天堂に会津藩士（医師）もいて、知人は多くいたと思いますが！ 今は何の手懸りもつかめていません。一つの発見から広がる謎？ やつぱり歴史って面白い！

（宮前 伊藤 和宏）

## 犬の散歩時のマナーの悪さにショック!!

年々ペットを飼う人達が増加の一途をたどっています。

ところでペット、特に犬を飼う目的はなんなのでしょう？ ペットを飼っている多くの人は先ずは可愛いからとか、心がいやされるから、そして、やはり、犬との散歩は欠かせないようです。確かに犬との散歩は、気分が爽快になり、また、健康管理にも一役も二役も果たしてくれます。恐らく犬ともども毎日快適に過ごしていることでしょうか？ 私も長年そうでした。

ところで、いちばん気になつて仕方のないのは、やはりマナーではないかと思えます。初めて出逢った犬同士のケンカも耐え切れません。飼主によつては「うちの犬は大丈夫だから」と犬を近づけていたりします。ところが人間同様に犬にも相性というものが必ずありますから十分に気を

つけて欲しいものです。

また、犬の散歩で気がかりなのは犬のフンや尿の後始末です。尿は仕方のないことですがフンの始末の悪さには本当に大きなショックを受けます。朝の散歩中に犬のフンの数を数えてみました。すると「ここにも、さらにここにも」。通り沿いに十数ヶ所もフンをさせっぱなし状態なのです。スコップを片手に持ち歩いて形ばかりの人が結構います。犬には何の責任もないのですから飼主の方がきちんと後始末をしてもらいたいものです。平然と散歩している姿を犬たちはきちんと見ています。犬のマナーを心得ていただけたら道行く人の散歩も快地こころもちいでしょうが、ともかくマナーは確実に守ってもらいたいと日々願うばかりです。今後犬を飼う人への忠告でもあります。

(井野 川木 淳)

## 行く所がある幸せ

私も多少行く所はあった。ただ振り返ってみると自慢できることは何一つない。

7歳の時、兄貴のお下がりを着て小学校に入学した。少しのダボダボは愛嬌、袖口の汚れは鼻たれ小僧の証と息巻いていた。男子はハンケチや鼻紙を持つ者は誰一人いない貧しい時代だった。それでも小学校に行くとは給食があり、嬉しくて楽しい時間だった。地元の小学校の校庭は放課後遊びに行く所だった。暗くなるまで野球をして遊んだ思い出がある。

高校から行きたい所は志望通り行けるとは限らなかった。社会に出れば何度も転勤を経験した。サラリーマンなら当たり前前の単身赴任は辛かった。しかし寮の室で行く所がある幸せに一人胸を熱くしたこと

く所が無くなった。妻の「何とかなりますよ」を頼りに行く所を見つけよう。

健康維持を目的に近くのスポーツクラブに行つて汗を流すもよし。自然を求め里山散歩や名所・旧跡めぐりに行くながら佐倉男声合唱団に入り石の上にも三年何とか続いている。更に佐倉市民カレッジに入学して新たな生きがい探した。今年には福祉グループ「あじさいの会」の仲間12人と高齢者施設を訪問し、お手伝いや地域交流を通して「私たちのまちづくり」に取り組んでいる。

「あなたご存知ですか。冥土の途中に閻魔大王様のお裁きがあつて、生前の行い次第で極楽行きか地獄行きかが決まるそうよ。いいじゃない、どっちにしても行く所があるから、あなた幸せよ」と言われた。

(南ユーカーが丘 井手季雄)

## 1月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等の修正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鐺木町198-3

URL [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0\\_1.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html)

### やぐら道

昨年大型スケジュール表（A4型）のノートをもらい、どのように使おうかと考えました。以前、新聞か何かで読んだことがあった「何でもいから、毎日嬉しかったことを1件以上手帳に書く」というのを思い出して、昨年1月より小さなことでもいいから、毎日2件以上嬉しかったことをそのスケジュール表に書いていこうと思いました。

実際書いてみると、小さなことでも1日2件以上嬉しかったことがある日はほとんどないことに気が付きました。又、あっても記入するのを忘れてしまうこともあり、後で見返すと、ほとんど空欄となっており、寂しい毎日だったなあと思っています。平成26年は、書き洩れを無くし、1日1件は記入できる人生を送りたいと思っています。

（島田 敏晃）

### あとがき

あけましておめでとございます。

平成26年の新春を迎えました。今年は「午年」、どんな年になるでしょうか。

若い頃は「人生の好機を掴み時代を先読みしたい」と思い、年末年始には職業柄いんな運勢の本などを読んだ。

2014年は、暦法でいう「甲午きのうま」の年である。すくすくと伸びゆく「大樹」を象徴

するという。目的に向かって前へ前へと歩みを進めるエネルギーに満ち、世の中全体が明るく活気づき、何ごとにも積極的に取り組んでいこうという気運が高まっていく年になる、との予想もある。当たるも八卦当たらぬも八卦。

難題が山積する我が国の将来に向けて、光明を見出す年となるよう期待したい。読者皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り致します。

（若岡 照秋）